

日本社会は人口減少と超高齢化の局面に入り、歴史的な転換のただなかにいる。生活世界の政治的・経済的・文化的再編が喫緊の課題として立ち現れるとともに、高齢化による地域の文化や風習の担い手の消滅も着々と進行中だ。文化遺産も同じく喪失の危機にある。そんな課題に対応するために、2019年に文化財保護法改正が施行された。文化財の保全と活用をまちづくりと接続する形で、多元的かつ包括的に、一度に達成することが狙いだ。

ただしグローバル化の進む社会では、ナショナルな法制度は別の磁場や力学にもさらされる。私たちは、自らが帰属する社会の文化遺産を保全・継承しつつも、多様性と持続可能性を持つ社会を作っていくために、それらの文化遺産を常に外に開いておかねばならない。それは成熟した社会を作り出すための手立てともなるだろう。本シンポジウムではそんな知的格闘を続ける研究者・実践者らの議論から、これからの文化遺産像を探る。

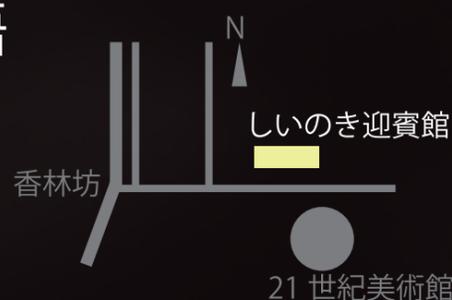
# 成熟社会の 文化遺産とは何か

## 多様性と持続可能性を作り出すために

- 13:00 開場  
13:30 「開会の挨拶」  
中村慎一（金沢大学・新学術創成研究機構・機構長）  
「趣旨説明」  
河合望（金沢大学・新学術創成研究機構・教授）  
谷川竜一（同・助教）
- 13:40 発表  
「持続可能な文化遺産の保存と活用」  
星野有希枝（文化庁・地域文化創生本部事務局 総括・政策研究グループ グループリーダー）  
「都市のみかたとしての文化的景観  
——金沢・宇治・岡崎を事例に」  
本間智希（京都工芸繊維大学・博士課程後期）  
「ジャカルタ旧市街の都市再生」  
林憲吾（東京大学生産技術研究所・講師）  
「韓国・大邱のまちづくりと文化遺産  
——北・西城路の事例を中心に」  
パク・スンジュ（大邱日韓交流ブックカフェ・大邱ハル代表）
- 15:35 総合ディスカッション  
コメンテーター 鏡味治也（金沢大学・教授）  
17:00 閉会

日時：2020年2月11日（火・祝）  
13:30 - 17:00（開場 13:00）  
場所：石川県政記念しいのき迎賓館  
セミナールーム B  
（石川県金沢市広坂2丁目1番1号）

言語：日本語  
参加費：無料



主催：金沢大学 新学術創成研究機構  
文化遺産国際協力ネットワークユニット  
共催：金沢大学 国際文化資源学研究所  
連絡先：tryuichi@staff.kanazawa-u.ac.jp（谷川）